

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| 事業所番号 | 2470400090 |
| 法人名 | グループホーム キノシタ(有) |
| 事業所名 | グループホーム 亀山 |
| 所在地 (電話番号) | 亀山市川崎町1586-1 (電話) 0595-85-8858 |
| 評価機関名 | 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 10 月 8 日(水) |

【情報提供票より】 (H20年9月19日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 15 人 | 常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人 | |

(2)建物概要

| | | | |
|------|---------|-----|-------|
| 建物構造 | 木造平屋 造り | | |
| | 1 階建ての | 階 ~ | 1 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------------|----------------|--------------|
| 家賃(平均月額) | 33,000 円 | その他の経費(月額) | 29,000 円~ |
| 敷金 | 有(円) 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 50,000 円 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 400 円 | 昼食 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4)利用者の概要(9 月 19 日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 7 名 | 女性 11 名 |
| 要介護1 | 6 名 | 要介護2 | 1 名 |
| 要介護3 | 6 名 | 要介護4 | 4 名 |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 名 |
| 年齢 | 平均 83.7 歳 | 最低 74 歳 | 最高 97 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|-------------------------|
| 協力医療機関名 | ひらぬま内科クリニック 鈴鹿病院 大木歯科医院 |
|---------|-------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路そばに立地して通行量も多いが中に入ると想像以上に静かである。高齢者専用アパート、デイサービス等が隣接しており広大な敷地の一部にグループホームがある。廊下や居室が広くゆったりとした空間である。廊下の天井は天窓になっており明かりが入り暖かさが感じられる。開設当初より入居者の身体的機能の低下が見られる。そんな中、利用者の思いや気持ちを引き出すために日々前向きに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-----------|---|
| 重点項目 ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 地域に根ざした理念の見直しも前回からの検討課題である。職員の定着も安定してきているため、再度職員全体で取り組んでいただきたい。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が一緒になって自己評価に取り組んでいる。施設長が集約して仕上げている。改善点について会議等で話し合い、より良いものにしていくとしている。 |
| 重点項目 ② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2ヶ月ごとに開催し地域包括支援センター、住民代表、自治会長、民生委員、家族代表、利用者等が参加し活発な意見が出ている。 |
| 重点項目 ③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月「ぐっどほーむ通信」を発行して利用者の日々の状況を見てもらっている。また会計報告も兼ねて知らせている。家族からの意見や要望がでる事は少ない。 |
| 重点項目 ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会、老人会に入っている。運営推進会議等の中でも今秋予定の秋祭りの案内をもらったり、敬老会からの案内もある。また、緊急時の避難場所として事業所内の広場を提供したりして地域との関わりを大切にしている。 |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 事業所独自の理念はあるが以前からの継続であり、理念の見直しは前回からの検討課題である。 | ○ | 事業所が地域とどう関わっていけるかを、再度全職員とで話し合い具体的なものにされることを期待したい。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 掲示されている理念を毎日のミーティングで唱和したり、毎月の会議等で話し合いをしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会の行事(秋祭りでのチンドン屋、子供神輿)の見学や老人会主催の敬老会の案内、受け入れボランティア(ちゃちゃの会)による大正琴の視聴等、地域の方達と交流を図っている。また緊急時の避難場所として、敷地内の広場を提供している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 全職員が一緒になって(1人10項目ほどパーツ毎に分けている)自己評価に取り組んでいる。施設長が集約して仕上げている。改善点についても会議等で話し合い、より良いものにしようとしている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月毎に開催をしている。参加者も地域包括支援センター、住民代表、自治会長、民生委員、家族代表、利用者等の参加があり活発な意見が出ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 権利擁護担当者の訪問、更新の申請代行やそれ以外にも随時必要に応じ市と連携をしている。介護相談員の訪問も月1回ある。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 毎月「ぐっどほーむ通信」を発行し、会計報告や近況報告も一緒に家族等に送っている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 行事を兼ねて家族会を開いている。しかし参加される家族は少なく、思うような意見や要望は出ていない。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 離職の多い年もあったが徐々に安定してきている。新人職員も利用者に溶け込もうと働きかけ利用者に不安が生じないようにしている。 | | |
| 5・人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者から情報の提供もあり、その中で交代しながらも積極的に研修会等に参加をしている。レポートも提出して全職員で情報の共有を図りながら自己啓発に努めている。資格取得に関しても前向きな支援をしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会の研修に参加し、相互交流を図っている。また、市内の同業者との勉強会にも参加したりした事もある。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|---|
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 自宅に訪問して利用者の心理状態を把握したりしている。顔を覚えてもらいながら不安をできるだけ少なくして入居がスムーズにできるようにしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 生活歴や日々の関わりの中でその方の得意とする場面づくりに取り組み工夫をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者からの自発的な訴えや要望がでにくい為、職員側で利用者の気持ちを察知して思いや訴えを汲み取ろうと工夫している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 3人の利用者に対し1人の担当を決めており、毎月25日の職員会議やケース会議において、日頃の気づきや問題点等を出し合って介護計画の作成をしている。家族からの意見や要望については働きかけをしているが特に出していない。 | ○ | 色々な機会を捉えて、家族からの意見や要望を引き出す働きかけを継続されるよう期待したい。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 6ヶ月毎に見直しをしている。また、特別変化がある場合には随時見直しをしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 個別の買い物に出かけたり、入居前からのかかりつけ医の受診に(家族が行けない時)事業所で対応をしている。また、月1回の訪問理美容や訪問歯科の支援もしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後は原則協力医への変更となるが、希望により従来のかかりつけ医の受診もある。2週ごとの往診もあり利用者の健康管理がなされている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 家族等にアンケートを配布し看取りの場の意思確認をしている。過去に最後まで看取った経験もしている。家族が特別養護老人ホームを希望される場合には入所の申込みをすることもある。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 広報誌の写真掲載について家族等に同意を得た方だけを載せる等、個人情報の取り扱いには注意を払っている。利用者への話かけも、改まった言葉でなく、個人を尊重した自然な形で接している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間に間に合わない方には時間をずらして摂ってもらったり、散歩に出かけようとする方には一緒に出かけたりして、その方々に応じた支援をしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 朝食・昼食・夕食を手作りしている。職員も一緒に同じ食事を摂っている。後片付け等をできる方ができている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 日曜は沸かしていないが、ほぼ毎日入浴される方もみえる。入浴拒否の方もいるが、少なくとも週3回は入浴していただくようにしている。また、車椅子の方には、デイサービスの機械浴で安全に入浴していただいている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食事の後片付けや洗濯物をハンガーがけされたりしている。しかし、利用者によっては生活機能の低下が見られる事もあり、職員も役割の声かけに苦慮することもある。 | ○ | 利用者の生活歴からその方々の得意分野を活かせる場面づくりを図り、うまく気持ちを引き出しながら、できる事のできる範囲での支援に期待したい。 |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 1対1での見守りを必要とする方が多くなってきており、散歩や買い物に出かける回数が減っている。 | ○ | 敷地内の広場は十分有効利用できる場所であり、短時間でも外気浴をとって季節感が味わえる時を作っていただき、利用者が気持ちの良い刺激をうけて表情や笑顔がもっと引き出せればと願いたい。 |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 幹線道路のそばで交通量も多く、安心・安全を重視して日中の施錠がみられる。 | ○ | 緊急やむを得ず一時的な施錠はあっても日頃の施錠が常態化しないよう、鍵をかけないで済む工夫を全職員で再度検討されることを期待したい。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 毎年消防署による避難訓練や消火器の使い方の指導を受けている。利用者も一緒に参加している。非常食の備蓄もある。緊急時には広場の使用を地域に提供することとしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 担当職員が冷蔵庫内の食材をみてその日のメニューを決めている。会議の中で栄養バランスについては話し合っている。水分摂取も、リビングで自由に飲めるように用意してある。他に食後や入浴後、散歩後、おやつ時に提供して水分不足がないようにしている。 | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用部分の廊下は広く、天窓から入る光が通路を明るくしている。リビングにあるテレビの音量も適切である。空気のよどみもなく快適な空間である。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、家族の写真や遺影、ぬいぐるみの置物等、それぞれの方の思い出の品が置かれている。ポータブルトイレの持込みも見られる。 | | |